

2.2. 東京大学機械系図書室の明治時代のランキン本

機械系図書室 滝沢正順

takizawa@mech.t.u-tokyo.ac.jp

1.

東京大学機械系図書室には明治時代から平成時代までに受け入れた図書と雑誌が所蔵されている。その中の明治時代に受け入れた W.J.M.ランキンの著書(編著等も含む)の受け入れ時期について見てみた。明治時代の「東大」は、校名や組織の変更が何度もあったため、受け入れた校名は複数にわたっている。

ところで筆者は以前に、東京大学機械系図書室所蔵の明治 30 年以前受け入れの図書の冊数を、受け入れ時期や校名で数えてみたことがある。

研究者のなかには、たとえば「明治初期に使われた洋書の教科書」とか「工部大学校で使われた洋書」といった形で研究をおこなう例もあるかと思われたので、数える意味はあるかと思われたのである。

よく知られているように、大正 12 年の関東大震災のとき東京帝国大学附属図書館は全焼し、そのため関東大震災以前の東大の図書原簿は現存しない。したがって「数える」というのは、本の現物にあたって蔵書印や書票によって数えるしかない。

そのとき数えたのは単行本だけで製本雑誌は含まない。明治 30 年で区切ったのは、それ以前なら数える作業が比較的しやすかったからである。明治 30 年は京都にも新しく帝国大学ができて、東京にあるそれまでの帝国大学が東京帝国大学と改称された年である。

数え落としはあると思うがその時の冊数を再掲する次の通りである(滝沢正順「明治時代の蔵書のことなど」、『図書館の窓』(東京大学附属図書館月報)第 29 卷 10 号(1990 年 10 月)、101 - 102 頁)。この中には、今回見てみた W.J.M.ランキンの著書の大部分も含まれている。

開成学校(第一大学区)	15 冊
東京大学三学部	58 冊
工学寮	127 冊
工部大学校	123 冊
帝国大学図書館(明治 19 ~ 26 年)	42 冊
帝国大学工科大学(書房)	111 冊
帝国大学図書館(明治 27 ~ 30 年)	72 冊

2.

ランキンについては、一般的な説明の例として『岩波西洋人名辞典』から引いておく。
(増補版第3刷、1983年、岩波書店、1623頁)

ランキン Rankin, William John Macquorn. 1820.7.5 – 72.12.24
イギリス(スコットランド)の工学者, 物理学者. 土木技師を経て,
グラスゴー大学土木工学教授(1855). 熱力学, 弾性学, 波動理論を
研究し, 特に熱力学に近代的基礎を与えた業績は大きく, 熱力学の
第2法則にも言及している. [著作集] Rankine's scientific papers, 1881.

このランキンの著書等は明治時代の日本でも当然ひろく使われたが、ランキンは日本の工学にとっては、工部大学校の初代の都検ヘンリー・ダイアーの推薦者という点でも大きな意味を持っている。ダイアーはスコットランドのグラスゴウ大学でのランキン教授の学生だった。都検という語は今見なれない語だが、工部大学校ではのち教頭と改称、英語では principal と表記していた。

なお、東京大学機械系図書室のランキンの著書は原書だけであるが、ランキンの著書は日本で翻訳本も発行されていた。たとえば明治18年に文部省から発行された永井久一郎訳『蘭均氏汽機学』は、その一つである。

訳者の永井久一郎(1852 – 1913)は官僚でのち実業家になった。永井は尾張藩の貢進生として大学南校に学びアメリカの大学にも留学に行っている(竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』、中央公論新社、1999年、12 – 13頁)。工学寮にも明治7年につとめたことがあるほか、帝国大学の書記官もつとめている。図書館史では東京書籍館の館長補として名がのこっている。文学史のほうでは、漢詩と小説家の永井荷風の父親として名が出てくる。翻訳では明治9年から16年にかけて文部省から出た翻訳『百科全書』のなかの「水運篇」「豚・兎・食用鳥・籠鳥篇」「希臘史」が永井久一郎の訳である。ちなみにこの『百科全書』の訳者の中には、永井のほかにも西村茂樹や高橋是清、大槻文彦、菊地大麓といった今も知名の人の名が見える。

3.

さて、ランキンの著書の受け入れ時期について、本の現物にあたって調べてみたのが後掲の表である。

発行年と受け入れ時期(校名)を対照させると、(当然ではあるが)新刊として発行されたり、新しい版が出て大体すぐに購入していると思われる。もっとも寄贈や移管等による受け入れもあるかもしれないが、本の現物からそれがわかるものは今回みた中にはなか

った。一般的には購入による受け入れが多いと思われるので、今はいちおう全て購入として扱っておくことにする。

ただし「すぐに購入」と言っても、数年や1～2年程度の時間差はありうる。表中の1876（明治9）年発行で東京大学三学部の蔵書印がある本も、明治10年が「東京大学」発足の年であるから、発行後すくなくとも1年程度以上たって購入の可能性はある。

工部大学校と東京大学三学部の蔵書（どちらも校名のちがう明治10年以前を含む）には蔵書印や蔵書票はあっても、本の現物にこれらの学校の登録番号（備品番号）は記されていない。しかし明治19年に帝国大学が発足して以降の受け入れ図書には、（東京）帝国大学（附属）図書館の登録番号（備品番号）が本の現物に付されている。

工部大学校と東京大学三学部の蔵書は、帝国大学が発足したさい、あらためて登録し直すことは原則としてしていないようである。工部大学校の旧蔵書にはすべて帝国大学の蔵書印が押されてはいるが。ただ工部大学校のも東京大学のも、一部の本には帝国大学図書館の書票があってその登録番号が記されているものがある。後掲の表にも2冊そうした例がある。

なぜ一部の本にだけ登録番号を付したのかは、今は不詳である。帝国大学以後（関東大震災まで）に新しく受け入れた本には登録番号とともに登記年月日も記されているのだが、この一部の本は、登録番号は付されていても登記年月日はないので、まったく新規の登録し直しとは異なるようである。

なお、明治19年の帝国大学発足以後、大正12年の関東大震災までの登録番号は、「帝国大学」時代も「東京帝国大学」時代も合わせて共通の一連番号であったと考えるのが自然と思われる。

4 .

三好信浩『ダイアリーの日本』（福村出版、1989年）には、現在の東京大学が所蔵するランキンの本4冊の中扉の写真が掲載されている（56頁）。

その中に東大機械系図書室所蔵のが1冊ふくまれているが、この本は今回対象とした本とは別の本で、工部大学校と（東京）帝大のお雇い外国人教師だったC.D.ウェストの旧蔵書である。（写真中の発行年と中扉の蔵書印の有無からそれが分かる。）ウェストの旧蔵書は、ウェストが明治41年に日本で亡くなった後、東京帝大に寄贈され、大正3年に受け入れ登録されているが、そのうちの1冊である。このウェスト旧蔵書中には複数のランキンの著書があり、ウェストは大学構内の官舎に住んでいたため、「明治時代に東大構内にあったランキンの本」には違いない。しかし明治時代には大学所蔵本ではなかったので、本稿の対象からは除外していい筈である。なお、ウェスト旧蔵書は外表紙の劣化の少なさ等から判断すると、東京帝大に寄贈後は記念図書として他の一般の蔵書とは別置され、教官や学生の通常の閲覧にはおそらく供されていなかったらと推定される。

東京大学機械系図書室のランキン編著書一覧

書名	発行年 (西暦)	発行年 (明治)	現在の請求番号	購入校名	移管	登記年月日 (受入登録印による)	登録番号 (関東大震災以前) (書票と受入登録印による)
Miscellaneous scientific papers : by W. J. Macquorn Rankine							
	1881	明治14	Aa-6-1-1	東京大学三学部			
Cyclopaedia of machine and hand-tools							
	1869	明治2	Qh-1-1-1	工学寮			
A manual of applied mechanics							
	1872	明治5	Ga-10-1-1	工学寮			
	1876	明治9	Ga-10-1-2		第二工学部へ移管		
	1882	明治15	Ga-10-1-3	工部大学校			
	1901	明治34	Ga-10-1-4		第二工学部へ移管		
	1908	明治41	Ga-10-1-5	東京帝国大学		明治42年10月23日	東京帝大146173
A manual of civil engineering							
	1876	明治9	Xg-1-1-1	東京大学三学部			帝国大学6428
A manual of machinery and millwork							
	1869	明治2	Fa-1-1-1	工学寮			
	1873	明治6	Xa-21-1-1	東京大学三学部			帝国大学6487
A manual of the steam engine and other prime movers							
	1873	明治6	Ke-36-1-1		第二工学部へ移管		
	1873	明治6	Ke-36-1-2	工学寮			
	1876	明治9	Ke-36-1-3		第二工学部へ移管		
	1908	明治41	Ke-36-1-4	東京帝国大学		明治42年10月23日	東京帝大146175
Useful rules and tables							
	1873	明治6	Yc-7-1-1		第二工学部へ移管		
	1876	明治9	Yc-7-1-2	東京大学三学部			
A mechanical text-book							
	1873	明治6	Ga-3-1-1		第二工学部へ移管		
	1873	明治6	Ga-3-1-2	工学寮			